

2025年度 文学部聴講生

講義要項

(英語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2025.4 - 2026.3

目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	教室番号	単位数	ページ番号
E1201	英語文学文化	イギリスの文化(1)	加太 康孝	前期	火	6時限	3990	2	1
E1202	英語文学文化	イギリスの文化(2)	加太 康孝	後期	火	6時限	3990	2	4
E1203	英語文学文化	イギリス文学史(1)	丹治 竜郎	前期	木	1時限	3114	2	7
E1204	英語文学文化	イギリス文学史(2)	丹治 竜郎	後期	木	1時限	3114	2	10
E1205	英語文学文化	近代イギリス小説(1)	大田 美和	前期	月	1時限	3551	2	12
E1206	英語文学文化	近代イギリス小説(2)	大田 美和	後期	月	1時限	3551	2	15
E1207	英語文学文化	現代イギリス小説(1)	梶山 秀雄	前期	火	4時限	3257	2	18
E1208	英語文学文化	現代イギリス小説(2)	梶山 秀雄	後期	火	4時限	3257	2	21
E1209	英語文学文化	イギリス詩(1)	兼武 道子	前期	月	3時限	3114	2	24
E1210	英語文学文化	イギリス詩(2)	兼武 道子	後期	月	3時限	3114	2	26
E1211	英語文学文化	アメリカの文化(1)	中尾 秀博	前期	他	その他	3990	2	28
E1212	英語文学文化	アメリカの文化(2)	中尾 秀博	後期	他	その他	3990	2	31
E1213	英語文学文化	アメリカ文学史(1)	中野 学而	前期	木	1時限	3353	2	34
E1214	英語文学文化	アメリカ文学史(2)	中野 学而	後期	木	1時限	3103	2	36
E1215	英語文学文化	近代アメリカ小説(1)	齋木 郁乃	前期	木	3時限	3101	2	38
E1216	英語文学文化	近代アメリカ小説(2)	齋木 郁乃	後期	木	3時限	3101	2	40
E1217	英語文学文化	現代アメリカ小説(1)	デーラ、ジョシュア ポール	前期	月	3時限	3202	2	42
E1218	英語文学文化	現代アメリカ小説(2)	デーラ、ジョシュア ポール	後期	月	3時限	3202	2	44
E1219	英語文学文化	アメリカ文学特殊研究(1)	デーラ、ジョシュア ポール	前期	月	2時限	3152	2	46
E1220	英語文学文化	アメリカ文学文化研究(1)	久保 尚美	前期	火	4時限	3352	2	49
E1221	英語文学文化	アメリカ文学文化研究(2)	久保 尚美	後期	火	4時限	3352	2	52
E1222	英語文学文化	世界の英語文学(1)	中尾 秀博	前期	他	その他	3990	2	55
E1223	英語文学文化	英語学概説(1)	若林 茂則	前期	木	1時限	3551	2	58
E1224	英語文学文化	英語学概説(2)	若林 茂則	後期	木	1時限	3551	2	61
E1225	英語文学文化	英語史(1)	福元 広二	前期	木	3時限	3551	2	64
E1226	英語文学文化	英語史(2)	福元 広二	後期	木	3時限	3551	2	66
E1227	英語文学文化	英語学(音声学・音韻論)(1)	マシューズ、ジョン	前期	月	1時限	F408	2	68
E1228	英語文学文化	英語学(音声学・音韻論)(2)	マシューズ、ジョン	後期	月	1時限	F408	2	71
E1229	英語文学文化	英語学(形態論・統語論)(1)	木村 崇是	前期	木	3時限	3209	2	74
E1230	英語文学文化	英語学(形態論・統語論)(2)	木村 崇是	後期	木	3時限	3209	2	77
E1231	英語文学文化	英語学(意味論・語用論)(1)	細井 洋伸	前期	金	1時限	3209	2	79
E1232	英語文学文化	英語学(意味論・語用論)(2)	細井 洋伸	後期	金	1時限	3209	2	81
E1233	英語文学文化	英語学(心理言語学)(1)	平川 真規子	前期	月	2時限	3551	2	84
E1234	英語文学文化	英語学(心理言語学)(2)	平川 真規子	後期	月	2時限	3351	2	87
E1235	英語文学文化	英語学(社会言語学)(1)	松井 智子	前期	水	4時限	3552	2	89
E1236	英語文学文化	英語学(社会言語学)(2)	松井 智子	後期	水	4時限	3552	2	91

科目名: イギリスの文化(1)

担当教員: 加太 康孝

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 火6

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-EX1-B201

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:1

更新者: AD0949

更新日時: 2025-02-26 23:09:0

授業形式

- ・原則として非同期型(録画された講義動画の視聴およびそれに基づくリアクションコメントの提出)で行われるが、授業日翌日の水曜日までに動画の視聴およびコメント提出を済ませることが求められる。
- ・学期末試験が試験期間に教室集合型で実施される。
- ・初回の授業は同期型(リアルタイムでの講義および授業時間内課題)でも行われる。

履修条件・関連科目等

「イギリスの文化(2)」と連続した内容ですが、必ず両方履修することを求めるものではありません。関連については「授業の概要」を参照してください。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代イギリスの文化に見るアイデンティティーの諸相(第1部 ブリテン諸島編)

現代イギリスにおけるアイデンティティーという主題を設定します。

その上で、「イギリス」という地域における複数性や多様性の表れ方という問題を念頭に置きます。

人々のアイデンティティーが単一のもの、均質なものであるということはありません。

したがって複数性や多様性が浮かび上がることは当たり前のことなのですが、まずはそのことを体感することを目指します。

同時に、「複数性」「多様性」という言葉に止まってしまうないように(つまり、「いろいろな人がいるなあ」で終わってしまわないように)気を付けます。

複数性や多様性を具体的に捉えた上で、それを整理して理解することが重要です。

各回では特定の論題を挙げ、それに関わる文化的事象を題材として考察します。

「イギリスの文化(1)」では「ブリテン諸島編」として、「イギリス」を構成する地域および隣国のアイルランドを扱います。

(なお、後期の「イギリスの文化(2)」では「さまざまな視角篇」として世界の中での位置付けや主題ごとの考察を行います。)

入門に当たる科目であり、扱う主題が広範囲にわたるため、まず各回の論題について概観し、大掴みな把握を試みます。

そのためどうしても広く、浅くという理解になってしまいがちですが、その欠点を補うべくさらにいくつか特定の文化的事象を取り上げて、具体的にそれぞれの問題に分け入っていきます。

その際には小説、詩、映像作品など多様な文化作品も扱うことになります。

また、現代のイギリスの社会に至るまでの経緯を理解しておくことの重要性を認識するべく、講義ではしばしば歴史的手法が取られます。

受講者は各回で提示される論題について自分なりの考えを持つことが求められます。

(具体的には「授業時間外の学習」の項目参照。)

科目目的

- ・ イギリスにおける文化およびアイデンティティーを理解するための知識や視点を学び、その全体像を把握する。
- ・ イギリスにおいて複数性、多様性がどのような形で表れているのかということについて理解を深める。
- ・ イギリスの文化およびアイデンティティーについての考察を通じて、あるひとつの地域における文化やアイデンティティーを学問的に扱う手法を習得する。

受講生の方々には必ずしもイギリスという地域の研究に継続して携わっていくわけではないでしょう。

また、イギリスという地域に大きな関心を抱いている方ばかりでもないかもしれません。

いずれにしても受講生には、この科目で得た手法を自分の生活する、あるいは興味を持つ地域を見る際に応用していこうという姿勢が求められます。

ただしその一方で、ある地域についての考察から学んだ知識や手法を他の地域にも応用して広げていくためには、当該地域(すなわちこの授業ではイギリス)の特殊性を徹底的に理解しようと努めることが必要不可欠です。

ですから、イギリス以外の地域と比較する姿勢を念頭に置きながらも、まずはどっぷりとイギリスのことについて考えてもらいたいと思います。

到達目標

文学部は、学位授与にあたって「備えるべき知識・能力・態度」を定めています。その観点からこの授業では以下の目標を掲げます。

- ・ イギリス地域の文化を学ぶに当たって必要な専門的知識の基礎、および幅広い教養を身に付ける（「専門的学識」・「幅広い教養」）
- ・ イギリスという特定地域の文化について考察するための知識および視角を得ることで、複眼的に思考し、さらにはさまざまな地域社会のあり方について柔軟に対応する姿勢を身に付ける（「複眼的思考」）
- ・ イギリス地域の文化について学んだことを自分の関心に結び付け、適切に自分の言葉で表現する力を身に付ける（「コミュニケーション力」「主体性」）

授業計画と内容

- 第1週 導入—「イギリス」とは何か
- 第2週 イングランド(1)—農村的イングリッシュネス
- 第3週 イングランド(2)—イングランドとその拡大

(5月6日 授業なし)

- 第4週 スコットランド(1)—スコティッシュネスとふたつの地域
- 第5週 スコットランド(2)—スコットランドと独立意識
- 第6週 ウェールズ(1)—ウェールズの言語
- 第7週 ウェールズ(2)—ウェールッシュネスと炭鉱業
- 第8週 前半のまとめ—グレートブリテン島のアイデンティティー
- 第9週 北アイルランド(1)—北アイルランド「問題」
- 第10週 北アイルランド(2)—「ノーザン・アイリッシュネス」は存在する？
- 第11週 ブリテン諸島(1)—EU離脱と「硬い」国境
- 第12週 ブリテン諸島(2)—イギリスの近くて遠い国アイルランド
- 第13週 ブリテン諸島(3)—アイルランド島の言語状況
- 第14週 学期の総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習 各回の授業で次回の主題および扱う題材を提示し、またいくつかの問いを出します。受講生は知らない固有名詞や概念についてあらかじめ調べ、また問いに対する自分の答えを用意しておいてください。

復習 各回の授業内で出てきた固有名詞や概念について不明点が残らないように、そして理解が深まるように、可能な限り調べてください。

その他、授業で紹介された書籍を読んだり、ウェブサイト、映画を自分で見たり、上演中の舞台や演劇、あるいは開催中の展覧会に足を運んだりしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	65% 学期を通じて得たイギリス文化に関する知識の定着度が問われ、また学んだ内容に基づいて自ら考察した内容を説明することが求められる。
レポート	0%
平常点	35% 各回のコメントペーパーが主たる評価対象となる。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

- ・ 毎回の出席が基本となります。さまざまな事情はあると思いますが、欠席は多くとも3回程度に収めてください。
- ・ 出席が14回中10回未満の場合、学期末試験は受けられず評価はFで確定します。やむを得ない事情による欠席(履修未確定の状態での出席していなかった回も含む)で出席回数が足りなくなる事態については早めにご相談ください。
- ・ オンライン授業では何をもって出席したと見なすべきか解釈が分かれがちです。この授業での出席の定義や履修期間までの最初の数回分の出席回数の扱い、やむを得ない不在時の代替措置については初回に説明した上で manaba 上に掲示します。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
タブレット端末
その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとして指定するものではありません。適宜 manaba を通じて資料を配布します。

その一方で、受講生は授業の内容を深めるべく関連文献を各自で読み進めることが期待されます。
そうした文献については授業中に随時紹介していきますが、特にこの授業と関連性が深く、入手しやすいものは以下です。

- ・マイク・ストーリー、ピーター・チャイルズ(編)、塩谷清人(監訳)『イギリスの今 - 文化的アイデンティティ』2013年(世界思想社)(原著の最新版は Mike Story and Peter Childs, 『British Cultural Identities』, 6th edn, 2022)
- ・板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』2008年(松柏社)
- ・下楠昌哉(責任編集、著)、岩田美喜、西能史、丸山修、杉野健太郎、荒川裕子、小川公代、小籠尚文、下永裕基、立入正之、田中美穂、日臺晴子、深谷公宣、真野剛(著)『イギリス文化入門』2010年(三修社)
- ・石塚久郎、大久保譲、西能史、他(編)『イギリス文学入門』新版(三修社、2023年)
- ・近藤久雄、細川祐子、阿部美春(編)『イギリスを知るための65章』第2版[エリア・スタディーズ、33](明石書店、2014年)
- ・吉賀憲夫(編)『ウェールズを知るための70章』第3版[エリア・スタディーズ、175](明石書店、2019年)
- ・尹慧瑛『暴力と和解のあいだ。北アイルランド紛争を生きる人びと』(法政大学出版局、2007年)
- ・海老島均、山下理恵子(編)『アイルランドを知るための70章』第3版[エリア・スタディーズ、44](明石書店、2019年)

オフィスパワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(英語)の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名: イギリスの文化(2)

担当教員: 加太 康孝

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 火6

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-EX1-B202

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:1

更新者: AD0949

更新日時: 2025-02-26 23:17:3

授業形式

- ・原則として非同期型(録画された講義動画の視聴およびそれに基づくリアクションコメントの提出)で行われるが、授業日翌日の水曜日までに動画の視聴およびコメント提出を済ませることが求められる。
- ・学期末試験が試験期間に教室集合型で実施される。
- ・初回の授業は同期型(リアルタイムでの講義および授業時間内課題)でも行われる。

履修条件・関連科目等

「イギリスの文化(1)」と連続した内容ですが、必ず両方履修することを求めるものではありません。関連については「授業の概要」を参照してください。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代イギリスの文化に見るアイデンティティーの諸相(第2部 さまざまな視角編)

現代イギリスにおけるアイデンティティーという主題を設定します。

その上で、「イギリス」という地域における複数性や多様性の表れ方という問題を念頭に置きます。

人々のアイデンティティーが単一のもの、均質なものであるということはありません。

したがって複数性や多様性が浮かび上がることは当たり前のことなのですが、まずはそのことを体感することを目指します。

同時に、「複数性」「多様性」という言葉に止まってしまうないように(つまり、「いろいろな人がいるなあ」で終わってしまわないように)気を付けます。

複数性や多様性を具体的に捉えた上で、それを整理して理解することが重要です。

各回では特定の論題を挙げ、それに関わる文化的事象を題材として考察します。

「イギリスの文化(2)」では「さまざま視角篇」として、世界の中での位置付けや主題ごとの考察を行います。

(なお、前期の「イギリスの文化(1)」では「ブリティッシュ諸島編」として「イギリス」を構成する地域および隣国のアイルランドを扱います。)

入門に当たる科目であり、扱う主題が広範囲にわたるため、まず各回の論題について概観し、大掴みな把握を試みます。

そのためどうしても広く、浅くという理解になってしまいがちですが、その欠点を補うべくさらにいくつか特定の文化的事象を取り上げて、具体的にそれぞれの問題に分け入っていきます。

その際には小説、詩、映像作品など多様な文化作品も扱うことになります。

また、現代のイギリスの社会に至るまでの経緯を理解しておくことの重要性を認識するべく、講義ではしばしば歴史的手法が取られます。

受講者は各回で提示される論題について自分なりの考えを持つことが求められます。

(具体的には「授業時間外の学習」の項目参照。)

科目目的

- ・ イギリスにおける文化およびアイデンティティーを理解するための知識や視点を学び、その全体像を把握する。
- ・ イギリスにおいて複数性、多様性がどのような形で表れているのかということについて理解を深める。
- ・ イギリスの文化およびアイデンティティーについての考察を通じて、あるひとつの地域における文化やアイデンティティーを学問的に扱う手法を習得する。

受講生の方々には必ずしもイギリスという地域の研究に継続して携わっていくわけではないでしょう。

また、イギリスという地域に大きな関心を抱いている方ばかりでもないかもしれません。

いずれにしても受講生には、この科目で得た手法を自分の生活する、あるいは興味を持つ地域を見る際に応用していかうという姿勢が求められます。

ただしその一方で、ある地域についての考察から学んだ知識や手法を他の地域にも応用して広げていくためには、当該地域(すなわちこの授業ではイギリス)の特殊性を徹底的に理解しようと努めることが必要不可欠です。

ですから、イギリス以外の地域と比較する姿勢を念頭に置きながらも、まずはどっぷりとイギリスのことについて考えてもらいたいと思います。

到達目標

文学部は、学位授与にあたって「備えるべき知識・能力・態度」を定めています。その観点からこの授業では以下の目標を掲げます。

- ・ イギリス地域の文化を学ぶに当たって必要な専門的知識の基礎、および幅広い教養を身に付ける（「専門的学識」・「幅広い教養」）
- ・ イギリスという特定地域の文化について考察するための知識および視角を得ることで、複眼的に思考し、さらにはさまざまな地域社会のあり方について柔軟に対応する姿勢を身に付ける（「複眼的思考」）
- ・ イギリス地域の文化について学んだことを自分の関心に結び付け、適切に自分の言葉で表現する力を身に付ける（「コミュニケーション力」「主体性」）

授業計画と内容

- 第1週 導入—「イギリス」とは何か
- 第2週 帝国・コモンウェルス
- 第3週 ヨーロッパ
- 第4週 アメリカ合衆国
- 第5週 人種、民族(1)—ブリテン諸島の民族的多様性
- 第6週 人種、民族(2)—脱植民地化と民族的多様性

(11月4日 授業なし)

- 第7週 宗教、信仰—脱植民地化前後の宗教的多様性のあり方
- 第8週 社会階級(1)—王室・上流階級
- 第9週 社会階級(2)—ミドルクラス
- 第10週 社会階級(3)—労働者階級そして「新しい社会階級」
- 第11週 ジェンダー・セクシュアリティ(1)—「家庭の天使」の幻影
- 第12週 ジェンダー・セクシュアリティ(2)—20世紀後半に起きた「解放」
- 第13週 年齢、世代—保守的？ 革新的？

(12月30日、1月6、13日 授業なし)

- 第14週 学期の総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習 各回の授業で次回の主題および扱う題材を提示し、またいくつかの問いを出します。受講生は知らない固有名詞や概念についてあらかじめ調べ、また問いに対する自分の答えを用意しておいてください。

復習 各回の授業内で出てきた固有名詞や概念について不明点が残らないように、そして理解が深まるように、可能な限り調べてください。

その他、授業で紹介された書籍を読んだり、ウェブサイト、映画を自分で見たり、上演中の舞台や演劇、あるいは開催中の展覧会に足を運んだりしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	65% 学期を通じて得たイギリス文化に関する知識の定着度が問われ、また学んだ内容に基づいて自ら考察した内容を説明することが求められる。
レポート	0%
平常点	35% 各回のコメントペーパーが主たる評価対象となる。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

- ・ 毎回の出席が基本となります。さまざまな事情はあると思いますが、欠席は多くとも3回程度に収めてください。
- ・ 出席が14回中10回未満の場合、学期末試験は受けられず評価はFで確定します。やむを得ない事情による欠席(履修未確定の状態)で出席していなかった回も含む)で出席回数が足りなくなる事態については早めにご相談ください。
- ・ オンライン授業では何をもって出席したと見なすべきか解釈が分かちがちです。この授業での出席の定義や履修期間までの最初の数回分の出席回数の扱い、やむを得ない不在時の代替措置については初回に説明した上で manaba 上に掲示します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストとして指定するものではありません。適宜 manaba を通じて資料を配布します。

その一方で、受講生は授業の内容を深めるべく関連文献を各自で読み進めることが期待されます。そうした文献については授業中に随時紹介していきますが、特にこの授業と関連性が深く、入手しやすいものは以下です。

- ・マイク・ストーリー、ピーター・チャイルズ(編)、塩谷清人(監訳)『イギリスの今 - 文化的アイデンティティ』2013年(世界思想社)(原著の最新版は Mike Storry and Peter Childs, 『British Cultural Identities』, 6th edn, 2022)
- ・板倉徹一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』2008年(松柏社)
- ・下楠昌哉(責任編集、著)、岩田美喜、西能史、丸山修、杉野健太郎、荒川裕子、小川公代、小館尚文、下永裕基、立入正之、田中美穂、日臺晴子、深谷公宣、真野剛(著)『イギリス文化入門』2010年(三修社)
- ・石塚久郎、大久保護、西能史、他(編)『イギリス文学入門』新版(三修社、2023年)
- ・近藤久雄、細川祐子、阿部美春(編)『イギリスを知るための65章』第2版[エリア・スタディーズ、33](明石書店、2014年)
- ・吉賀憲夫(編)『ウェールズを知るための70章』第3版[エリア・スタディーズ、175](明石書店、2019年)
- ・尹慧瑛『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きる人びと』(法政大学出版局、2007年)
- ・海老島均、山下理恵子(編)『アイルランドを知るための70章』第3版[エリア・スタディーズ、44](明石書店、2019年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名: イギリス文学史(1)

担当教員: 丹治 竜郎

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 2・3年次担当

科目ナンバー: LE-LT2-B203

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:1

更新者: AA9907

更新日時: 2024-12-28 10:24:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

イギリス文学の偉大な伝統に属する作家の代表作を中心に古英語の時期から18世紀前半までのイギリス文学のおおまかな流れを把握する講義形式の授業です。社会的・文化的な背景を踏まえながら、主要な作家・作品を紹介していきます。配布資料で作品の一部を読みます。

科目目的

イギリス文学の歴史および主要な作家・作品について概括的な知識を身に着けること。

到達目標

イギリス文学の主要な作品について、どのような時代においてだれによって書かれたかがぼんやりと記憶に残っている。

授業計画と内容

- 第1回 古英語文学: Beowulf
- 第2回 中英語文学: Piers PlowmanとSir Gawain and the Green Knight
- 第3回 中英語文学: Chaucer
- 第4回 チューダー朝とスチュアート朝の時代の社会と文学
- 第5回 チューダー朝(1485-1603)初期の詩と散文: More, Sidney, Spenser
- 第6回 チューダー朝(1485-1603)の演劇: Shakespeareの歴史劇、喜劇、詩
- 第7回 チューダー朝(1485-1603)の演劇: Shakespeareの悲劇とロマンス劇
- 第8回 チューダー朝(1485-1603)の演劇: Marlowe, Jonson (manaba)
- 第9回 スチュアート朝(1603-1714)の詩: Metaphysical PoetsとCavalier Poets
- 第10回 スチュアート朝(1603-1714)の詩: MiltonとDryden
- 第11回 スチュアート朝(1603-1714)の散文: Bunyan, Pepys, Locke
- 第12回 新古典主義の時代(18世紀前中期)の社会と文学
- 第13回 新古典主義時代の詩と散文: PopeとSwift
- 第14回 まとめ: 古英語時代から18世紀までのイギリス文学

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 期末試験の得点にもとづいて評価する
レポート	0%
平常点	20% 授業中に行う小テストの得点にもとづいて評価する。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

授業でプリントを配布します。

【参考書】

Michael Alexander, A History of English Literature (Palgrave Macmillan)

Ronald Carter and John McRae, The Routledge History of Literature in English: Britain and Ireland (Routledge)

Ronald Carter and John McRae, The Penguin Guide to Literature in English: Britain and Ireland (Penguin)

Andrew Sanders, The Short History of English Literature (Oxford UP)

Paul Poplawski, ed., English Literature in Context (Cambridge UP)

Margaret Drabble, ed., The Oxford Companion to English Literature (Oxford UP)

内田能嗣『イギリス文学史』(大阪教育図書)

上田和夫(編)『イギリス文学辞典』(研究社)

青木和夫、丹治竜郎、安藤和弘『知っておきたいイギリス文学』(明治書院)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職(英語)の必修科目です。

科目名： イギリス文学史(2)**担当教員： 丹治 竜郎**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B204

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AA9907

更新日時：2024-12-28 10:10:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

イギリス文学の偉大な伝統に属する作家の代表作を中心に18世紀から20世紀初頭までのイギリス文学のおおまかな流れを把握する講義形式の授業です。文化的・思想的背景などを踏まえながら、主要な作家・作品を紹介していきます。配布資料で作品の一部を読みます。

科目目的

イギリス文学の歴史および主要な作家・作品について概括的な知識を身に着けること。

到達目標

イギリス文学の主要な作品について、どのような時代においてだれによって書かれたかがぼんやりと記憶に残っている。

授業計画と内容

- 第1回 小説の勃興:概要
- 第2回 小説の勃興:Defoe
- 第3回 小説の勃興:RichardsonとFielding
- 第4回 小説の勃興:Sterne
- 第5回 Samuel Johnsonおよび感受性の時代(18世紀後期)
- 第6回 ロマン主義時代(1790-1837)の社会と文学
- 第7回 ロマン主義時代(1790-1837)の詩:Blake, Wordsworth, Coleridge
- 第8回 ロマン主義時代(1790-1837)の詩:Byron, Shelley, Keats
- 第9回 ロマン主義時代(1790-1837)の小説:Jane Austen
- 第10回 ヴィクトリア朝時代(1837-1901)の社会と文学
- 第11回 ヴィクトリア朝最盛期の小説:DickensとEliot
- 第12回 世紀末文学:PaterとWilde
- 第13回 20世紀初期の社会と文学
- 第14回 まとめ:18世紀から20世紀初頭までのイギリス文学

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 期末試験の得点にもとづいて評価する
レポート	0%
平常点	20% 授業中に行う小テストの得点にもとづいて評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

授業でプリント配布します。

【参考書】

Michael Alexander, A History of English Literature (Palgrave Macmillan)

Ronald Carter and John McRae, The Routledge History of Literature in English: Britain and Ireland (Routledge)

Ronald Carter and John McRae, The Penguin Guide to Literature in English: Britain and Ireland (Penguin)

Andrew Sanders, The Short History of English Literature (Oxford UP)

Paul Poplawski, ed., English Literature in Context (Cambridge UP)

Margaret Drabble, ed., The Oxford Companion to English Literature (Oxford UP)

内田能嗣『イギリス文学史』(大阪教育図書)

上田和夫(編)『イギリス文学辞典』(研究社)

青木和夫、丹治竜郎、安藤和弘『知っておきたいイギリス文学』(明治書院)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 近代イギリス小説(1)

担当教員: 大田 美和

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 月1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-B205

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:1

更新者: AA0322

更新日時: 2025-01-11 23:39:5

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

近代イギリス小説について、ジェンダーの視点によって考えます。manabaのコンテンツにアップしたレジュメにしたがって、小説の抜粋を英語で読み、鑑賞し、研究する姿勢を身につけます。

科目目的

フェミニスト批評やジェンダー論の視点から近代イギリス小説を学ぶことによって、文学テキストや映像について主体的に問題意識をもって問いかけ、思考し、社会について人間についての思考を深めることをめざします。優れた文学作品や芸術作品に対して心を開き、感動を言葉で表現する力を高めることもめざします。

到達目標

ブリタニカオンラインや文学事典の項目などを、英語で読む力を身につける。

中大図書館データベースの「ジャパンナレッジ」や「ブリタニカオンライン」(英語)や「Literature Online」や「Gale Literature」などを活用できるようになる。

イギリス小説の特徴と発展について理解する。

近代イギリス小説の名場面の短い抜粋を、原文の英語で読み、味わい、研究のきっかけになる問題点を見つける力を身につける。

文学研究の基本的な姿勢を身につけ、与えられた課題についてショートレポートが書けるようになる。

インターネット上の学びに役立つウェブサイトを利用することができるようになる。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション 近代小説においてなぜ「女」が問題になるのか? 「女」の表象と階級、人種、帝国、進化論 科学的言説と文学テキストの関係
- 第2回: 二つの女性像と「女」の病気、家庭
- 第3回: 既婚女性の権利獲得運動史 Barbara Leigh-Smith Bodichon と Caroline Norton
- 第4回: Jane Austen (1) 「女」である困難を乗り越える方法 “Beautiful Cassandra”
- 第5回: Jane Austen (2) 女は馬鹿なふりをしたほうが得? Northanger Abbey
- 第6回: Jane Austen (3) 結婚市場における「女」の売買としての結婚 Pride and Prejudice
- 第7回: Jane Austen (4) Persuasionのヒロインの「女らしさ」
- 第8回: The Brontë Sisters (1) Jane Eyre のfeminist manifest あるいは人権宣言
- 第9回: The Brontë Sisters (2) Vilette の二人の男を愛する「女」
- 第10回: The Brontë Sisters (3) ヒースクリフは「女」か? Wuthering Heights
- 第11回: The Brontë Sisters (4) DV、児童虐待とThe Tenant of Wildfell Hall
- 第12回: 近代の女の規範をクィアする レズビアン女領主 Miss Anne Lister の日記
- 第13回: 性自認、性的指向、性表現、結婚、非婚の違いを超えて Brontë, Mary Taylor, Anne Lister
- 第14回: まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書は授業で扱わない部分も自分で読んで下さい。小テストで教科書から出題することがあります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	与えられた課題について十分に考察したショートレポートが執筆できるかどうかを評価します。
平常点	50%	リアクションペーパーの解答を採点評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席は不可となります。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 浦野 郁、奥村 沙矢香 編著『よくわかるイギリス文学史』ミネルヴァ書房、2020年 ISBN: 9784623087747

参考書・参考資料等:
 石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014年
 メリン・ウィリアムズ『女性たちのイギリス小説』南雲堂、2005年。

松岡光治編『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』溪水社、2010年。
ヴァージニア・ウルフ『自分ひとりの部屋』平凡社ライブラリー、2015年。
Shattock, Joanne. Ed. Women and Literature in Britain 1800-1900. Cambridge: Cambridge UP, 2001.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：近代イギリス小説(2)**担当教員：大田 美和**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：月1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B206

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AA0322

更新日時：2025-01-11 23:41:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

近代イギリス小説について、ジェンダーの視点によって考えます。manabaのコンテンツにアップしたレジュメにしたがって、小説の抜粋を英語で読み、鑑賞し、研究する姿勢を身につけます。

科目目的

フェミニスト批評やジェンダー論の視点から近代イギリス小説を学ぶことによって、文学テキストや映像について主体的に問題意識をもって問ひかけ、思考し、社会について人間についての思考を深めることをめざします。優れた文学作品や芸術作品に対して心を開き、感動を言葉で表現する力を高めることもめざします。

到達目標

ブリタニカオンラインや文学事典の項目などを、英語で読む力を身につける。

中大図書館データベースの「ジャパンナレッジ」や「ブリタニカオンライン」(英語)や「Literature Online」や「Gale Literature」などを活用できるようになる。

イギリス小説の特徴と発展について理解する。

近代イギリス小説の名場面の短い抜粋を、原文の英語で読み、味わい、研究のきっかけになる問題点を見つける力を身につける。

文学研究の基本的な姿勢を身につけ、与えられた課題についてショートレポートが書けるようになる。

インターネット上の学びに役立つウェブサイトを利用することができるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション 近代小説ではなぜ結婚や家族が問題になるのか？
- 第2回 Elizabeth Gaskell (1) Mary Barton における経済格差社会と女の労働とセックス・ワーク
- 第3回 Elizabeth Gaskell (2) Cranford における牧師の娘と息子
- 第4回 Elizabeth Gaskell (3) ジェンダーと規範意識 “Martha Preston”と “Half A Life-Time Ago”
- 第5回 Elizabeth Gaskell (4) North and South はPride and Prejudiceか？ クィア・リーディングの試み
- 第6回 George Eliot (1) Gaskell のRuthとEliotのAdam Bede における婚外子と未婚の母
- 第7回 George Eliot (2) The Mill on the Floss における父と娘と息子
- 第8回 George Eliot (3) Silas Marner における血縁によらない家族
- 第9回 George Eliot (4) Middlemarch における夫婦と名誉
- 第10回 George Eliot (5) Daniel Deronda におけるDVと殺人
- 第11回 Thomas Hardy (1) ミドルクラスではない男性作家の「女」の表象 Tess of the d'Urbervilles
- 第12回 Thomas Hardy (2) ヴィクトリア朝の結婚制度に対する異議申し立て Jude the Obscure
- 第13回 その後のイギリス小説の進展 性自認、性的指向、性表現、結婚、非婚の違いを超えて
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書は授業で扱わない部分も自分で読んで下さい。小テストで教科書から出題することがあります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 与えられた課題について十分に考察したショートレポートが執筆できるかどうかを評価します。
平常点	50% リアクションペーパーの解答を採点します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席は不可となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 浦野 郁、奥村 沙矢香 編著『よくわかるイギリス文学史』ミネルヴァ書房、2020年 ISBN: 9784623087747

参考書・参考資料等:

石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014年

メリン・ウィリアムズ『女性たちのイギリス小説』南雲堂、2005年。

松岡光治編『ギャスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』溪水社、2010年。

ヴァージニア・ウルフ『自分ひとりの部屋』平凡社ライブラリー、2015年。

Shattock, Joanne. Ed. Women and Literature in Britain 1800-1900. Cambridge: Cambridge UP, 2001.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：現代イギリス小説(1)

担当教員：梶山 秀雄

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B207

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AD2161

更新日時：2025-01-11 05:27:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ピーター・ケアリー (Peter Carey) は、オーストラリア出身の作家で、国際的に高い評価を得ている現代文学の巨匠である。人間の心理や文化的アイデンティティ、植民地主義の影響を深く掘り下げた作品で知られている。ケアリーは、ブッカー賞を二度受賞した数少ない作家の一人で、代表作には『オスカーとルシнда』(Oscar and Lucinda, 1988) (後に映画化) や『ケリー・ギャングの真実の歴史』(True History of the Kelly Gang, 2000) があり、そのユニークな語り口と、歴史的事実とフィクションを巧みに融合させるスタイルを特徴としている。

本講座では、ケアリーの長編小説『ジャック・マッグス』(Jack Maggs, 1997) を深く読み解く。この作品は、チャールズ・ディケンズの名作『大いなる遺産』(Great Expectations) を大胆に再解釈した歴史小説であり、ヴィクトリア朝時代のイギリスとオーストラリアを比較対照しながら、植民地主義、階級社会、アイデンティティの問題を探ることを目的とする。

初回にまず作家についての概説をした後、毎週一定のペースで読み進める。授業ではポイントとなる部分にスポットライトを当てて解説する。回をこなすにつれて、部分的な解釈から作品全体の解釈へと展開していく。

科目目的

今日のイギリスの文壇を代表する作家の作品に触れ、その作家の他の作品を読むきっかけを作ること。現代イギリス小説一般への関心を高めること。文学作品の批評的な読みかたの基礎を習得すること。

到達目標

ケアリーの文体や語りの構造を分析し、ポストコロニアル文学の視点を学ぶこと。ディケンズの原作との比較を通じて、文学の改変や対話の意義を考察すること。植民地主義が個人や社会に及ぼす影響を読み解き、現代にも通じるテーマを発見すること。

授業計画と内容

- 第1回 インTRODクシヨン
 - 第2回 Chapter 1-7
 - 第3回 Chapter 8-15
 - 第4回 Chapter 16-23
 - 第5回 Chapter 23-30
 - 第6回 Chapter 31-38
 - 第7回 Chapter 39-46
 - 第8回 Chapter 47-54
 - 第9回 Chapter 55-62
 - 第10回 Chapter 63-70
 - 第11回 Chapter 71-78
 - 第12回 Chapter 79-86
 - 第13回 Chapter 86-91
 - 第14回 総括・まとめ
- (以上は予定であり、変更はありえる)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の講義に向けて原書の指定範囲に、ざっとで良いので必ず目をとおしておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 講義全体を振り返り、各自の視点から作品全体を考察する。
平常点	30% 各週の講義で取り上げた問題群への感想、疑問点などをアンケートの形で提出する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

Peter Carey, Jack Maggs
Faber and Faber、ペーパーバック版
生協に入荷される版を購入のこと。
参考文献:
Charles Dickens, Great Expectations
こちらはどの版でも可。

オフィスアワー

その他特記事項

文学史も含めて英文学についての予備知識は特に必要としない。

参考URL

備考

科目名： 現代イギリス小説(2)**担当教員： 梶山 秀雄**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B208

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AD2161

更新日時：2025-01-11 06:15:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講座では、現代イギリス文学を代表する作家イアン・マキューアンの小説『贖罪』(Atonement, 2001)を深く読み解くことを目的とする。この作品は、愛と裏切り、罪と贖罪をテーマに、人間の心理と記憶の複雑さを描いた傑作であり、物語の中で提示される真実と虚構の境界は、文学が持つ叙述の力と倫理的責任について私たちに問いかけている。

初回にまず作家についての概説をした後、毎週一定のペースで読み進める。授業ではポイントとなる部分にスポットライトを当てて解説する。回をこなすにつれて、部分的な解釈から作品全体の解釈へと展開していく。

科目目的

今日のイギリスの文壇を代表する作家の作品に触れ、その作家の他の作品を読むきっかけを作る。更に、現代イギリス小説一般への関心を高めること。文学作品の批評的な読みかたの基礎を習得すること。

到達目標

マキューアンの文体と物語構造を分析し、現代文学における彼の位置づけを理解すること。物語のテーマ(罪、贖罪、記憶、真実)を深く掘り下げて議論すること。戦争文学、ポストモダン文学、心理文学の観点から作品を考察すること。

授業計画と内容

- 第1回 イン트로ダクション
 - 第2回 第1部
 - 第3回 第1部
 - 第4回 第1部
 - 第5回 第1部
 - 第6回 第1部
 - 第7回 第2部
 - 第8回 第2部
 - 第9回 第2部
 - 第10回 第2部
 - 第11回 第3部
 - 第12回 第3部
 - 第13回 第3部
 - 第14回 総括・まとめ
- (以上は予定であり、変更はありえる。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の講義に向けて原書の指定範囲に、ざっとで良いので必ず目をとおしておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 講義全体を振り返り、各自の視点から作品全体を考察する。
レポート	30% 各週の講義で取り上げた問題群への感想、疑問点などをアンケートの形で提出する。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
Ian McEwan, Atonement
ペーパーバック版
生協に入荷される版を購入のこと。
参考文献:
イアン・マーキュアン『贖罪』(新潮文庫)

オフィスアワー

その他特記事項

文学史も含めて英文学についての予備知識は特に必要としない。

参考URL

科目名： イギリス詩(1)**担当教員： 兼武 道子**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 月3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B209

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AA0122

更新日時：2025-01-06 13:29:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

イギリス詩(1)と(2)で、ルネサンスから現代までの作品を読みます。(1)では、ルネサンスから18世紀の新古典主義までの作品を扱います。

授業では、詩の背景として、詩人とその時代や文化的な各種の事項について紹介と説明を行います。次に、文法や語句の説明を中心に詩の注釈を示し、日本語訳を提示します。最後に詩の解釈を述べて、「意味」の重層性を味わいます。

毎回の授業の最後にmanabaを介した小テストを受けてください。質問は授業で公開しますので、受験する人は必ず授業に出席して下さい。

期末には、800字の小レポートを書いて提出してください。

科目目的

イギリスの詩を読んで歴史と文化への理解を深めるとともに、正確で柔軟な英語の力をつけること。

到達目標

ひとつひとつの詩について、英語を正確に読み、内容を理解し、解釈を深めること。それぞれの詩人の表現方法の違いを知ること。好きな詩を選んで、自力で課題を設定し、議論を展開できるようになること。イギリスの文化についての理解を深めること。言葉に興味を持つこと。

授業計画と内容

以下の予定で授業を進めてゆきます。

- 1週目 導入・ルネサンスについて
- 2週目 Philip Sydney, _Astrophel and Stella_ 始まりの詩
- 3週目 Philip Sydney, _Astrophel and Stella_ 詩を書く秘訣についての詩
- 4週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ 青年貴族への詩 1
- 5週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ 青年貴族への詩 2
- 6週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ 青年貴族への詩 3
- 7週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ Dark Ladyへの詩 1
- 8週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ Dark Ladyへの詩 2
- 9週目 William Shakespeare, _The Sonnets_ Dark Ladyへの詩 3
- 10週目 John Donneの恋愛詩
- 11週目 John Donneの宗教詩
- 12週目 John Miltonの叙事詩
- 13週目 Alexander Popeのコミカルな叙事詩
- 14週目 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 自分で選んだ詩について、授業の内容を理解した上で、説得力ある解釈を明快に展開できているかを見ます。
平常点	60% 授業の内容を正確に理解できているかを見ます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

manabaを通して授業で配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: イギリス詩(2)

担当教員: 兼武 道子

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-B210

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:1

更新者: AA0122

更新日時: 2025-01-06 13:29:5

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

イギリス詩(1)と(2)で、ルネサンスから現代までの作品を読みます。(2)では、ロマン派から現代までの作品を扱います。

授業では、詩の背景として、詩人とその時代や文化的な各種の事項について紹介と説明を行います。次に、文法や語句の説明を中心に詩の注釈を示し、日本語訳を提示します。最後に詩の解釈を述べて、「意味」の重層性を味わいます。

毎回の授業の最後には、manabaを介した小テストを受験してください。質問は授業で公開しますので、受験する人は必ず授業に出席して下さい。

期末には、800字の小レポートを書いて提出してください。

科目目的

イギリスの詩を読んで歴史と文化への理解を深めるとともに、正確で柔軟な英語の力をつけること。

到達目標

ひとつひとつの詩について、英語を正確に読み、内容を理解し、解釈を深めること。それぞれの詩人の表現方法の違いを知ること。好きな詩を選んで、自力で課題を設定し、議論を展開できるようになること。イギリスの文化についての理解を深めること。言葉に興味を持つこと。

授業計画と内容

- 以下の予定で授業を進めてゆきます。
- 1週目 導入・古典主義とロマン主義
 - 2週目 William Wordsworth 対話の詩
 - 3週目 William Wordsworth 叙情詩
 - 4週目 William Wordsworth 思索の詩
 - 5週目 William Blake 無垢と経験の詩
 - 6週目 William Blake 社会批判の詩
 - 7週目 William Blake 象徴的な詩
 - 8週目 John Keats 観察の詩
 - 9週目 Alfred Tennyson ステレオタイプ化された女性を描く詩
 - 10週目 Robert Browning 個性的な人物についての詩
 - 11週目 W. B. Yeats 妖精についての詩
 - 12週目 W. B. Yeats 芸術についての詩
 - 13週目 T. S. Eliot 自意識の詩
 - 14週目 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 自分で選んだ詩について、授業の内容を理解した上で、説得力ある解釈を明快に展開できているかを見ます。
平常点	60% 授業の内容を正確に理解できているかを見ます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

manabaを通して授業で配布します

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： アメリカの文化(1)**担当教員： 中尾 秀博**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 他

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-EX1-B301

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AA9336

更新日時：2025-01-31 08:58:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

基本的に毎回ひとつのトピックやテーマを設定します。とりあげる予定のトピックやテーマは大半がハリウッド映画やポップスなどのポピュラー・カルチャー関連のものになります。

毎回のトピックやテーマについては授業支援システム manaba の「コースニュース」で予告します。そのトピックやテーマの理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます(ワークシートには段階的に五つ程度の作業が指定されています)。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料をダウンロードして、オーディオやビジュアルの素材に触れることで、トピックやテーマの理解を深めてもらいます。関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的な理解の深度が違ってくることが忘れないでください。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したスライド解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

最後にワークシートのQUIZの解答を「アンケート」に投稿してもらいます。400字以上で解答してもらいますので、提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

科目目的

「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」

- * 具体的には各回の講義のテーマやトピック(映画・音楽・出来事など)に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
- * そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べること
- * 調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる

到達目標

「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」ことを通じて以下の達成を目指す

- * 具体的には各回の講義のテーマやトピック(映画・音楽・出来事など)に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
 - * そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べる
 - * 調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる
- 以上を通じて獲得した知見を文章化すること(毎回のQUIZ解答および中間・期末レポート)で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようになる

授業計画と内容

初回と最終回は「イントロダクション」と「リキャピチュレーション」にあてます。

第7回は前半のおさらい 第13回は後半のおさらいをしてもらいます

- 第1回:アメリカにおける人種・言語・文化の多様性(イントロダクションに代えて)
- 第2回:ディズニー作品にみる多文化社会アメリカの現実との齟齬を隠蔽する「建国神話」
- 第3回:米国の風景写真の変遷
- 第4回:映画『ウェスト・サイド物語』とアメリカ性の虚構性:今世紀の対立を予見し、作品内で提示された融合の可能性の困難さ
- 第5回:映画『スーパーマン』のアメリカ性:非現実的でありながらも大衆の夢の象徴としての存在
- 第6回:ポップスの起源:アフリカ系・アイルランド系・ユダヤ系のルーツを具体的な楽曲で確認する
- 第7回:前半(第2回から第6回)のおさらい
- 第8回:「キング・オブ・ロックンロール」エルビス・プレスリーの楽曲の変遷について
- 第9回:1960年代のヒット曲(ビルボード・チャート)とその時代背景
- 第10回:ハリウッド映画におけるベトナム戦争の表象(アジア・アジア人のイメージ)
- 第11回:ポップアートのアメリカ性
- 第12回:「キング・オブ・ポップ」マイケル・ジャクソンの楽曲の変遷について

第13回:後半(第8回から第12回)のおさらい
第14回:全体の総括(リキャピチュレーションとして)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60% 各回のワークシートQUIZの解答の集計 (必ず400字以上で解答すること)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

中間・期末のレポートを提出していても
授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。
(QUIZの解答提出で出席チェックとします)

毎回のQUIZの解答も中間・期末のレポートも
規定の文字数制限を遵守すること!
(規定を満たさない場合は未提出扱いとします)
提出前に丁寧に読み直してケアレスミスをチェックすることを怠らないように!

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

Malcolm Bradbury, ed. Introduction to American Studies (Longman, 1998)

オフィスアワー

その他特記事項

履修者への要望:おもにアメリカのポップ・カルチャーを扱うからといって、かならずしも肯定的で、ノータンキな話に終始するわけではありません。直感的な好き嫌いにとらわれたり、喰わずぎらいをしないようにしてください。各回の講義をヒントにして自分でも調べて、考えて、まとめる作業が重要です。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職(英語)の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名： アメリカの文化(2)**担当教員： 中尾 秀博**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限： 他

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-EX1-B302

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AA9336

更新日時：2025-01-31 08:59:4

授業形式

この科目はオンライン(オンデマンド)形式で行います。
 全学授業支援システム manaba を使います。
 デスクトップ、ラップトップ、もしくはタブレットの使用を推奨します。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

基本的に毎回ひとつのトピックやテーマを設定します。とりあげる予定のトピックやテーマは大半がハリウッド映画やポップスなどのポピュラー・カルチャー関連のものになります。

毎回のトピックやテーマについて、授業支援システム manaba の「コースニュース」で予告し、そのトピックやテーマの理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます(ワークシートには五つ程度の作業が指定されています)。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料をダウンロードして、オーディオやビジュアルの素材に触れることで、トピックやテーマの理解を深めてもらいます。関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的な理解の深度が違ってくることを忘れないでください。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したスライド解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

最後にワークシートのQUIZの解答を「アンケート」に投稿してもらいます。400字以上で解答してもらいますので、提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

科目目的

「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」

- * 具体的には各回の講義のトピック(映画・音楽・出来事など)に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
- * そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べる
- * 調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる

到達目標

「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」ことを通じて以下の達成を目指す

- * 具体的には各回の講義のトピック(映画・音楽・出来事など)に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
- * そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べる
- * 調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる

以上を通じて獲得した知見を文章化すること(毎回のQUIZの解答および中間・期末レポート)で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようになる

授業計画と内容

初回と最終回は「イントロダクション」と「リキャピチュレーション」にあてます。詳細は未定ですが、各回のメニューは(ゆるやかに)前期の「アメリカの文化(1)」に対応させる予定です。たとえば、スーパーマン(前期)とバットマン(後期)とか、マイケル・ジャクソン(前期)とマドンナ(後期)とか。

とりあげる予定のトピックは、
 第1回：マクドナルド化(イントロダクションに代えて)

第2回：American Landscape II

第3回：ゴスペルとブルースとジャズ

第4回：ハリウッド映画とジェンダー

第5回：アメリカン・コミック(バットマン)

第6回：1970年代とハリウッド映画

第7回：前半(第2回から第6回)のおさらい

第8回：1970年代とヒットソング

第9回：1980年代とハリウッド映画

第10回：1980年代とヒットソング

第11回：世紀末カタストロフ映画

第12回：マドンナ

第13回:後半(第8回から第12回)のおさらい
第14回:全体の総括(リキャピュチュレーションとして)
などです。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60%	各回のワークシートQUIZの解答の集計 (必ず400字以上で解答すること)
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

随時、紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

履修者への要望:おもにアメリカのポップ・カルチャーを扱うからといって、かならずしも肯定的で、ノータンキな話に終始するわけではありません。直感的な好きさらいにとらわれたり、喰わずぎらいをしないようにしてください。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： アメリカ文学史(1)

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：木1

担当教員： 中野 学而

配当年次：2・3年次担当

科目ナンバー：LE-LT2-B303

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AA1540

更新日時：2025-03-07 06:36:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

20世紀アメリカ文学の流れを概観します。講義形式で進めますが、作品からの抜粋などを読む際には、受講者にも解釈や意見を述べてもらうこともあります。また毎回の授業の終わりに、マナバへの投稿として、あるいは紙媒体として、レスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

科目目的

19世紀までのアメリカ文学を通観して、その時代の文学を研究するための基礎的知識を養います。

到達目標

19世紀までのアメリカ文学の概要を理解し、個別の作家について基礎的知識を得る。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：ピューリタニズム1(ウインスロブ)
- 第3回：ピューリタニズム2(ジョナサン・エドワーズとベンジャミン・フランクリン)
- 第4回：トランセンデントリズム(エマソンとソロー)
- 第5回：アメリカン・ルネサンス1(ホーソーン 1)
- 第6回：アメリカン・ルネサンス2(ホーソーン 2)
- 第7回：アメリカン・ルネサンス3(メルヴィル 1)
- 第8回：アメリカン・ルネサンス4(メルヴィル 2)
- 第9回：アメリカン・ルネサンス5(ポー)
- 第10回：アメリカン・ルネサンス6(ホイットマン、ディキンソン)
- 第11回：スレイヴ・ナラティブ(ダグラスとハリエット・ジェイコブズ)
- 第12回：南北戦争(リンカン、ストウ)
- 第13回：リアリズム2(トウェイン)
- 第14回：自然主義(ドライサー)とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|---|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 50% 提示されたパッセージについて、作家名作品名出版年の指摘と、文学史的意味を問う。 |
| レポート | 0% |

レポート

平常点 50% 毎回のリアクション・ペーパーによる。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』(ミネルヴァ書房) 講義開始時までに生協で購入しておくこと。

以下は参考:
大橋健三郎ほか編『総説アメリカ文学史』(研究社)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職(英語)の必修科目です。

科目名： アメリカ文学史(2)

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：木1

担当教員： 中野 学而

配当年次：2・3年次担当

科目ナンバー：LE-LT2-B304

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AA1540

更新日時：2025-01-18 00:33:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

20世紀アメリカ文学の流れを概観します。講義形式で進めますが、作品からの抜粋などを読む際には、受講者にも解釈や意見を述べてもらうこともあります。また毎回の授業の終わりに、マナバへの投稿として、あるいは紙媒体として、レスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

科目目的

20世紀アメリカ文学の流れをさまざまな問題意識から概観することで、現代社会に通じる問題点に主体的かつ複眼的に取り組むための基礎的な態度を身につける。

到達目標

20世紀アメリカ文学の基礎的な知識が身についたか。現代社会における問題点に主体的に取り組む姿勢が身についたか。

授業計画と内容

授業計画

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：第一次大戦前夜——進化論、フロイト、マルクスの衝撃
- 第3回：モダニズム(1) Ernest Hemingway
- 第4回：モダニズム(2) F. Scott Fitzgerald
- 第5回：William Faulknerとアメリカ南部文学
- 第6回：1930年代のアメリカ文学
- 第7回：ハーレム・ルネサンス
- 第8回：アメリカ南部の女性作家
- 第9回：ユダヤ系アメリカ文学
- 第10回：カウンター・カルチャーとアメリカ文学
- 第11回：アフリカン・アメリカンの文学(1) リチャード・ライト
- 第12回：アフリカン・アメリカンの文学(2) トニ・モリスン
- 第13回：ネイティブ・アメリカンとアメリカ文学、ポストモダニズム以降のアメリカ文学
- 第14回：まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 20世紀アメリカ文学の基礎的な知識が習得できたかどうかを見ます。
レポート	0%

レポート

平常点 50% レスポンスペーパーを通じ、授業の内容を踏まえて主体的に問題意識を表現することができているかを見ます。なお、5回以上の欠席のあったものは評価の対象とはしません。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

竹内理矢、山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学』ミネルヴァ書房、2021年。
ISBN 978-4-623-09077-8

★講義開始までに必ず生協で購入しておくこと。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：近代アメリカ小説(1)**担当教員：齋木 郁乃**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：木3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B305

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AD1848

更新日時：2025-01-10 17:16:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

Sarah Orne Jewettの『The Country of the Pointed Firs』(1896)を原文で読みます。作品の精読を通じて文学批評の基礎を学ぶと同時に、英語読解力を培います。また、授業内における発表やディスカッション及び期末のレポート作成を通じて、自分の意見を論理的に伝える練習をし、レポート作成の基礎を身につけます。

科目目的

作品を原文で精読し、アメリカ文学および文化について学ぶと同時に、批評的思考と作品解釈の基礎を身に付けることを目的とします。また、プレゼンテーション能力、ディスカッションの作法、レポート作成の技術、及び英語読解力の向上を目指します。

到達目標

文学作品の精読と作品の背景の理解を通じて、批評的思考を身につけると同時にアメリカの文化、歴史、社会について知り考えることを目標とします。十分な予習に基づいて自分の意見を明確に論理的に述べることを求められます。

授業計画と内容

1. Introduction
2. I The Return, II Mrs. Todd, III The School House Window
3. IV At the Schoolhouse Window, V Captain Littlepage
4. VI The Wating Place, VII The Outer Island
5. VIII Green Island
6. IX William, X Where Pennyroyal Grow
7. XI The Old Singers, XII A Strange Sail
8. XIII Poor Joanna
9. XIV The Hermitage, XV On Shell-Heap Island
10. XVI The Great Expedition, XVII A Country Road
11. XVIII The Bowden Reunion
12. XIX The Feast's End, XX Along Shore
13. XXI The Backward View, Criticism
14. 授業のまとめ、レポートの書き方

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 期末に作品解釈のレポートを課します。

平常点 60% プレゼンテーションの内容とディスカッションへの貢献度を見ます。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
PDFにて配布します。

【参考文献】
必要に応じてPDFにて配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：近代アメリカ小説(2)**担当教員：齋木 郁乃**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：木3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B306

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:1

更新者：AD1848

更新日時：2025-01-10 17:48:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

逃亡奴隷体験記として知られるHarriet A. Jacobs の *Incidents in the Life of a Slave Girl* を読みます。作品の精読を通じて文学批評の基礎を学ぶと同時に、英語読解力を培います。また、授業内における発表やディスカッション及び期末のレポート作成を通じて、自分の意見を論理的に伝える練習をし、レポート作成の基礎を身につけます。

科目目的

作品を原文で精読し、アメリカ文学および文化について学ぶと同時に、批評的思考と作品解釈の基礎を身に付けることを目的とします。また、プレゼンテーション能力、ディスカッションの作法、レポート作成の技術、及び英語読解力の向上を目指します。

到達目標

文学作品の精読と作品の背景の理解を通じて、批評的思考を身につけると同時にアメリカの文化、歴史、社会について知り考えることを目標とします。十分な予習に基づいて自分の意見を明確に論理的に述べることが求められます。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. I Childhood, II The New Master and Mistress, III The Slaves' New Year's Day
3. IV The Slave Who Dared to Feel Like a Man, V The Trials of Girlhood
4. VI The Jealous Mistress, VII The Lover, VIII What Slaves Are Taught to Think of the North
5. IX Sketches of Neighboring Slaveholders, X A Perilous Passage in the Slave Girl's Life, XI The New Tie to Life,
6. XII Fear of Insurrection, XIII The Church and Slavery, XIV Another Link to Life
7. XV Continued Persecutions, XVI Scenes at the Plantation, XVII The Flight
8. XVIII Months of Peril, XIX The Children Sold, XX New Perils, XXI The Loophole of Retreat
9. XXII Christmas Festivities, XXIII Still in Prison, XXIV The Candidate for Congress
10. XXV Competition in Cunning, XXVI Important Era in My Brother's Life, XXVII New Destination for the Children, XXVIII Aunt Nancy
11. XXIX Preparations for Escape, XXX Northbound, XXXI Incidents in Philadelphia, XXXII The Meeting of Mother and Daughter
12. XXXIII A Home Found, XXXIV The Old Enemy Again, XXXV Prejudice against Color, XXXVI The Hairbreadth Escape, XXXVII A Visit to England
13. XXXVIII Renewed Invitations to Go South, XXXIX The Confession, XL The Fugitive Slave Law,
14. 授業のまとめ、レポートの書き方

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	40% 期末に作品解釈のレポートを課します。
平常点	60% プレゼンテーションの内容とディスカッションへの貢献度を見ます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

PDFにて配布します。

【参考文献】

必要に応じてPDFにて配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 現代アメリカ小説(1)

担当教員: デール、ジョシュア ポール

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 2~4年次担当

科目ナンバー: LE-LT2-B307

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:1

更新者: AA2231

更新日時: 2025-01-09 11:24:5

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

日本語

✓ 英語

ドイツ語

フランス語

中国語

その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

In this class we will read three short stories by the African American science fiction writer Octavia Butler. We will discuss issues of race, class and gender as well as the acceptance of people with disabilities in American culture. The class format will be lecture and discussion. Class requirements include short writing assignments, an oral presentation, and a final exam.

科目目的

Students will deepen their understanding of the diversity of American society and learn how to analyze American works of literature.

到達目標

Students will learn how to interpret literary works and study American culture. They will practice presenting their own arguments in oral presentations and in discussion. Students will improve their English ability, critical thinking and speaking skills.

授業計画と内容

- 1.Introduction
- 2.Lecture on Octavia Butler
3. "The Evening and the Morning and the Night"
4. "The Evening and the Morning and the Night"
5. "The Evening and the Morning and the Night"
- 6.Short videos about hip hop dancer and performance artist Bill Shannon aka "Crutchmaster"
7. "Bloodchild"
8. "Bloodchild"
9. "Bloodchild"
- 10.Oral presentations, day 1
- 11.Oral presentations, day 2
12. "Speech Sounds"
13. "Speech Sounds"
- 14.Course review: summary of issues connected to gender and disability in American culture.

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 60% The final exam will cover the course content.

レポート	0%
平常点	25% Oral presentations, group discussion; asking and answering questions during lectures.
その他	15% Short writing assignments

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

Texts will be posted to manaba.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 現代アメリカ小説(2)

担当教員： デール、ジョシュア ポール

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 2～4年次担当

科目ナンバー： LE-LT2-B308

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:30:1

更新者： AA2231

更新日時： 2025-01-09 11:24:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

日本語

✓ 英語

ドイツ語

フランス語

中国語

その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

In this course we will discuss the differences in the image of robots and artificial intelligence (AI) between the United States and Japan. We will read three science fiction stories: Sarah Pinsker, "Bigger Fish," Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds" and Alastair Reynolds, "Polished Performance". Analyzing the image of robots and AI in the United States will enable us to analyze broad themes connected to American culture. The class will focus on student presentations and discussion.

科目目的

The aim of this course is to improve students' ability to analyze both literature and culture. We will study how literature address questions such as what it means to be human.

到達目標

Students will improve their English ability, critical thinking and oral discussion / presentation skills. They will also learn how to critically analyze literary texts.

授業計画と内容

- 1.Introduction
- 2.Laws of Robotics: Isaac Asimov vs. Tezuka Osamu
- 3.Lecture/discussion on the image of robots and AI in the USA and Japan
- 4.Sarah Pinker, "Bigger Fish"
- 5.Sarah Pinker, "Bigger Fish"
- 6.Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
- 7.Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
- 8.Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
- 9.Oral presentations
- 10.Alastair Reynolds, "Polished Performance"
- 11.Alastair Reynolds, "Polished Performance"
- 12.Alastair Reynolds, "Polished Performance"
- 13.Emotion modeling in real robots: aibo and LOVOT
- 14.Course review: summary of themes related to robots and AI in the USA and Japan

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	The final exam will cover the course content.
レポート	0%	
平常点	25%	Oral presentations, group discussion; asking and answering questions during lectures.
その他	15%	Short writing assignments

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

Texts will be handed out by the instructor.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： アメリカ文学特殊研究(1)**担当教員： デール、ジョシュア ポール**

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-EX2-B309

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:30:2

更新者： AA2231

更新日時： 2025-01-09 11:24:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

日本語

✓ 英語

ドイツ語

フランス語

中国語

その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

This course will investigate issues related to migration and cross-cultural identity in different generations. It considers what it means to be “American” in a multicultural society, and how identity transforms when people move to other countries.

We will read two graphic novels in this course. “We Are Not Strangers” by Josh Tuininga is based on a true story of a community’s struggle with race, responsibility, and what it means to be an American during the second World War. “Himawari House” by Harmony Becker tells the story of three friends from different countries who explore their changing identities while living in contemporary Japan.

科目目的

The purpose of this course is to learn about minority communities in the United States and explore issues surrounding their presence and participation in multicultural America and Japan. Students will improve both their ability to make presentations in English and their critical thinking skills.

到達目標

Students will improve their English ability, critical thinking and oral discussion / presentation skills. They will also learn how to critically analyze literary texts.

授業計画と内容

1. Introduction
2. Himawari House (HH) chapters 1-2; We Are Not Strangers (WANS) Introduction to p. 15
3. HH chapters 3-4; WANS pp. 16-35
4. HH chapters 5-6; WANS pp. 36-55
5. HH chapters 7-8; WANS pp. 56-71
6. HH chapters 9-10; WANS pp. 72-91
7. HH chapters 11-12; WANS pp. 92-109
8. HH chapters 13-14; WANS pp. 110-129
9. HH chapters 15-16; WANS pp. 130-167
10. HH chapters 17-18; WANS pp. 168-181
11. HH chapters 19-21
12. Discussion of final reports
13. Final lecture and discussion on the theme of ethnicity in multicultural societies.
14. Course review: summary of issues in multicultural America

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	The final exam will cover the course content.
レポート	0%	
平常点	25%	Oral presentations, group discussion; asking and answering questions during lectures.
その他	15%	Short writing assignments

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

The following textbooks are available at the student co-op:
Becker, Harmony. Himawari House. First Second Books. 2021. New York. ISBN 125023557X
Tuininga, Josh. We Are Not Strangers: A Graphic Novel. Harry N. Abrams (September 12, 2023)
ISBN: 1419759949

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： アメリカ文学文化研究(1)**担当教員： 久保 尚美**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 火4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-EX2-B311

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:2

更新者：AA1440

更新日時：2025-01-11 19:54:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

アメリカ社会における人種と差別の問題に関して、19世紀に書かれた奴隷体験記(スレイヴ・ナラティブ)、20世紀前半に書かれた黒人文学作品などを取り上げ、文化・政治・ジェンダーといった側面から考えます。受講生は各回ごとに示される課題に取り組むことで理解を深めていきます。

科目目的

アメリカ社会における人種の問題の背景を学ぶとともに、それがどのように自伝や文学作品に示されているかを読み解く。

到達目標

- ・アメリカ社会の多様性について理解を深める。
- ・アメリカ文学作品を分析するにあたり、必要な専門知識の基礎を学ぶ。
- ・学んだ知見にもとづいて文学作品を解釈し、自分の言葉で表現する力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション、奴隷制と奴隷体験記
- 第2回: Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave 抜粋
- 第3回: Harriet Ann Jacobs, Incidents in the Life of a Slave Girl 抜粋
- 第4回: 奴隷制度廃止と人種隔離政策
- 第5回: Booker T. WashingtonとW. E. B. DuBois
- 第6回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ①
- 第7回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ②
- 第8回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ③
- 第9回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ④
- 第10回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ①
- 第11回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ②
- 第12回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ③
- 第13回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ④
- 第14回: まとめ

* 授業の進度により、第6回から第13回で扱う文学作品を変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で紹介する文献や関連する作品を読むこと
 期末試験に向けた準備をすること

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	期末試験の得点により授業の理解度を評価します。 ・授業で扱う歴史的／文化的事項や概念を理解し、適切に説明できるか。 ・授業で扱うテキストを読み解き、その解釈を説得的に示すことができるか。
レポート	0%	
平常点	50%	各回の考察課題(レスポンスシート)への取り組みが主たる評価対象となります。なお受講者数によっては、個別に考察発表をしてもらい(1人1回)、その内容も評価対象となります。 ・講義内容を踏まえた考察がなされているか。 ・自分の考えを適切な文章で書くことができているか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席回数(毎回の考察課題提出回数)が70%に満たないものは、この授業の成績評価対象にならず「不可」となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業内で資料を配付します。
関連する文献等については、授業内で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: アメリカ文学文化研究(2)

担当教員: 久保 尚美

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-EX2-B312

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:2

更新者: AA1440

更新日時: 2025-01-11 19:55:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

アメリカの人種問題における白人性について、白人の作家や思想家の書いた文学作品やエッセイを読んで考察します。受講生は各回ごとに示される課題に取り組むことで理解を深めていきます。

科目目的

アメリカ社会における人種の問題の背景を学ぶとともに、それがどのようにエッセイや文学作品に示されているかを読み解く。

到達目標

- ・アメリカ社会の多様性について理解を深める。
- ・アメリカ文学作品を分析するにあたり、必要な専門知識の基礎を学ぶ。
- ・学んだ知見にもとづいて文学作品を解釈し、自分の言葉で表現する力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション、アメリカ社会と人種問題(1)南北戦争以前
- 第2回: アメリカ社会と人種問題(2)南北戦争前後
- 第3回: アメリカ社会と人種問題(3)公民権運動 1
- 第4回: アメリカ社会と人種問題(4)公民権運動 2
- 第5回: William Faulkner, "Dry September," pp. 169-173
- 第6回: William Faulkner, "Dry September," pp. 173-175
- 第7回: William Faulkner, "Dry September," pp. 175-180
- 第8回: William Faulkner, "Dry September," pp. 180-183
- 第9回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 405-408
- 第10回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 408-412
- 第11回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 412-414
- 第12回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 413-417
- 第13回: Flannery O'Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 417-420
- 第14回: まとめ

* 授業の進度により、第5回から第13回で扱う文学作品を変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- 授業で紹介する文献や関連する作品を読むこと
- 期末試験に向けた準備をすること

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	期末試験の得点により授業の理解度を評価します。 ・授業で扱う歴史的／文化的事項や概念を理解し、適切に説明できるか。 ・授業で扱うテキストを読み解き、その解釈を説得的に示すことができるか。
レポート	0%	
平常点	50%	各回の考察課題(レスポンスシート)への取り組みが主たる評価対象となります。なお受講者数によっては、個別に考察発表をしてもらい(1人1回)、その内容も評価対象となります ・講義内容を踏まえた考察がなされているか。 ・自分の考えを適切な文章で書くことができているか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席回数(毎回の課題提出回数)が70%に満たないものは、この授業の成績評価対象にならず「不可」となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

manabaを用いて資料を配付します。
関連する文献等については、授業内で紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：世界の英語文学(1)**担当教員：中尾 秀博**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：他

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B381

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:2

更新者：AA9336

更新日時：2025-01-31 09:01:1

授業形式

この科目はオンライン(オンデマンド)形式で行います。
 全学授業支援システム manaba を使います。
 デスクトップ、ラップトップ、もしくはタブレットの使用を推奨します。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

アフリカ、カリブ海地域、オーストラリアの英語圏文学を概観する予定です。なるべく多くの作品を、なるべくいい見方に見てゆくという両立しがたい企てをいくぶんか達成するために、講義ではおもに短篇をとりあげることになるでしょう。できるだけ映像作品なども紹介する予定です。

毎回の作品やテーマについて、授業支援システム manaba の「コースニュース」で予告し、その作品やテーマの理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます(ワークシートには五つ程度の作業が指定されています)。

作品のテキストは PDF 版が「コースコンテンツ」に掲載されていますので、ダウンロードして(できればプリントアウトするなどして)、予め下読みをしておいてください。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料をダウンロードして、作品やテーマの理解を深めてもらいます。関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的なテキスト理解の深度が違ってくることを忘れないでください。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したスライド解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

最後にワークシートの QUIZ の解答を「アンケート」に投稿してもらいます。400字以上で解答してもらいますので、提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

科目目的

- アフリカ、カリブ海地域、オーストラリアの英語圏文学を概観する
 具体的には
- * 各地域・各国の短篇作品を読解する
 - * 各地域・各国の歴史的・社会的・文化的背景を理解する
 - * その過程で映像作品などの紹介も行う

到達目標

「アフリカ、カリブ海地域、オーストラリアの英語圏文学を概観する」ことを通して
 各地域・各国の歴史的・社会的・文化的背景な理解を重層化する過程で
 獲得した知見を文章化すること(毎回の QUIZ の解答および中間・期末レポート)で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようになる

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション(植民地主義＝コロニアリズムと人種・階級・ジェンダー)
- 第2回：アフリカの短篇小説1 "Colour Blues"
- 第3回：アフリカの短篇小説2 "The Big Swallow"
- 第4回：アフリカの短篇小説3 "In the Shadow of War"
- 第5回：アフリカの短篇小説4 "The Moment before the Gun Went off"
- 第6回：カリブ海地域の詩1 "I am the Archipelago"
- 第7回：前半(第2回から第6回)のおさらい
- 第8回：オーストラリア篇のイントロダクション(植民地主義＝セトラー・コロニアリズム)
- 第9回：オーストラリアの抵抗文学 "Took the Children Away"
- 第10回：オーストラリアの短篇小説1 "Drover's Wife"
- 第11回：オーストラリアの短篇小説2 "Drover's Wife" の変奏
- 第12回：オーストラリアの映画1 "Night Cries"
- 第13回：後半(第8回から第12回)のおさらい

第14回:全体の総括(リキャピュチュレーションとして)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60% 各回のワークシートQUIZの解答の集計 (必ず400字以上で解答すること)
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

PDF版を manaba に掲載します。

必要に応じて参照用のURLなどを紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： 英語学概説(1)**担当教員： 若林 茂則**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 木1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-LG1-B401

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:2

更新者：AA0529

更新日時：2025-01-10 19:24:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

英語学は、単なる英語の分析にとどまらず、他の隣接科学とも提携しながら人間についての深い理解を目指す基礎学問の一つとして位置づけられる。言語が人間にとってどのようなものであるかという視点を失わないで、英語学の様々な分野へ足を踏み入れていながら、確かな英語理解と発展的な問題意識を身につけることを目指したい。

科目目的

言語とはどういうものかについて、英語(また日本語との比較)を題材にして学ぶ。

到達目標

英語学に関する基本的な用語や概念を理解する。

授業計画と内容

講義形式で英語学・言語学の主要テーマを順次話していく。

1. Introduction to English Linguistics
2. The origins of language
3. Animals and human language
4. The sounds of language
5. The sound patterns of language
6. Differences between English sounds and Japanese sounds
7. Word formation
8. Morphology (Introduction)
9. Differences between English words and Japanese words
10. Grammar
11. Syntax
12. Semantics
13. Pragmatics
14. Summary and Review

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	90-100 優れている。用語や概念を十分に理解し、授業内容を論理的に組み立て、独自の証拠や考察を加えて議論している。 80-90 とても良い。用語や概念の理解に不十分な点は見られず、授業で扱った内容をカバーできている。 70-80 良い。重要な用語や概念は理解している。考察や表現において不十分な点があるものの、論理や証拠に支えられた独自の考察がある。 60-70 合格。用語や概念の理解に問題が見られるものの、授業で扱った内容の理解が明らかである。 0-60 不合格。用語や概念の理解に誤りがあり、論理性や証拠に欠ける。授業の内容を理解しているとは考えにくい。
レポート	0%	
平常点	50%	毎回の授業レポート ★授業レポートの提出は10回の予定。1回の提出が5点。 授業レポートの点数 Excellent (内容をよく理解し、さらに自分で調べたこと、考えたことが良くわかる) 5点 Very Good (内容を理解し、自分で考えた部分がある) 4点 Good (内容がほぼ理解できており、自分で考えた努力が見られる) 3点 Not Good (内容の理解に問題がある) 2点 Submitted (内容の理解が乏しい) 1点 ★毎回出しても平均2点以下では単位は出ない。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
Yule, G. (2023) The Study of Language, 8th edition. Cambridge University Press

参考文献:

大津由紀雄ほか監修 (2021)「言語研究の世界」研究社
窪園晴夫 (2019)「よくわかる言語学」ミネルヴァ書房

他にも随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は教職(英語)の必修科目です。

科目名： 英語学概説(2)**担当教員： 若林 茂則**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-LG1-B402

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:2

更新者：AA0529

更新日時：2025-01-10 19:25:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

現代の英語学は、単なる英語の分析にとどまらず、他の隣接科学とも連携しながら人間についての深い理解を目指す基礎学問の一つとして位置づけられる。言語が人間にとってどのようなものであるかという基本的な問題意識を持續させて英語学のさまざまな分野へ足を踏み入れていながら、正確な英語理解と発展的な問題意識を身につけることを目指したい。

科目目的

言語とはどういうものかについて、英語(また日本語との比較)を題材にして学ぶ。

到達目標

英語学に関する基本的な用語や概念を理解する。

授業計画と内容

講義形式で英語学・言語学の主要テーマを順次話していく。

1. Introduction to English linguistics: Its use and acquisition
2. Discourse analysis
3. Language and the brain
4. First language acquisition
5. Second language acquisition/learning
6. System underlying language acquisition
7. Language learning and language teaching
8. Gestures and sign languages
9. Written language
10. Language history and change
11. Regional variation in language
12. Social variation in language
13. Language and culture
14. Summary and Review

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 50% 90-100 優れている。用語や概念を十分に理解し、授業内容を論理的に組み立て、独自の証拠や考察を加えて議論し

ている。
 80-90 とても良い。用語や概念の理解に不十分な点は見られず、授業で扱った内容をカバーできている。
 70-80 良い。重要な用語や概念は理解している。考察や表現において不十分な点があるものの、論理や証拠に支えられた独自の考察がある。
 60-70 合格。用語や概念の理解に問題が見られるものの、授業で扱った内容の理解が明らかである。
 0-60 不合格。用語や概念の理解に誤りがあり、論理性や証拠に欠ける。授業の内容を理解しているとは考えにくい。

レポート	0%	
平常点	50%	毎回の授業レポート ★授業レポートの提出は10回の予定。1回の提出が5点。 授業レポートの点数 Excellent (内容をよく理解し、さらに自分で調べたこと、考えたことが良くわかる) 5点 Very Good (内容を理解し、自分で考えた部分がある) 4点 Good (内容がほぼ理解できており、自分で考えた努力が見られる) 3点 Not Good (内容の理解に問題がある) 2点 Submitted (内容の理解が乏しい) 1点 ★毎回出しても平均2点以下では単位は出ない。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
 その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 授業中に指示します。
 Yule, G. (2023) The Study of Language, 8th edition. Cambridge University Press

参考文献:
 大津由紀雄ほか監修 (2021)「言語研究の世界」研究社
 窪園晴夫 (2019)「よくわかる言語学」ミネルヴァ書房

他にも随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語史(1)

担当教員： 福元 広二

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 木3

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B403

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:30:2

更新者： AD1723

更新日時： 2024-12-18 12:45:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。前期は前史から中英語期までを、後期は中英語期から現代英語期までを扱う。

科目目的

英語の歴史を学ぶことで、現代英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

到達目標

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 世界語としての英語
- 第3回 英語外面史の概観
- 第4回 インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
- 第5回 古英語期における社会的・文化的時代背景
- 第6回 古英語の名詞
- 第7回 古英語の代名詞
- 第8回 古英語の形容詞・副詞
- 第9回 古英語の動詞活用
- 第10回 古英語の語順・否定
- 第11回 古英語の作品講読
- 第12回 中英語期における社会的・文化的時代背景
- 第13回 中英語の名詞・形容詞
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 英語史の基礎知識を理解した上で、英語の特徴を英語史的観点から説明できるかどうかを評価します。
- レポート 0%

平常点 40% 授業への参加・貢献度、ミニッツ・ペーパーの取り組みの状況を基準とします。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提基準:出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
宗宮喜代子『歴史をたどれば英語がわかる』2024年 開拓社

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語史(2)

担当教員： 福元 広二

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 木3

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B404

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:30:2

更新者： AD1723

更新日時： 2024-12-18 12:46:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。前期は前史から中英語期までを、後期は中英語期から現代英語期までを扱う。

科目目的

英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

到達目標

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中英語の動詞
- 第3回 中英語に特徴的な文法
- 第4回 中英語期における借入語
- 第5回 中英語の文学作品講読
- 第6回 初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
- 第7回 初期近代英語期に特徴的な文法
- 第8回 初期近代英語期における借入語
- 第9回 初期近代英語の文学作品講読
- 第10回 後期近代英語期における社会的・文化的時代背景
- 第11回 後期近代英語期に特徴的な文法
- 第12回 アメリカ英語の成立と特徴
- 第13回 現在進行中である英語の文法変化
- 第14回 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	英語史の基礎知識を理解した上で、英語の特徴を英語史的観点から説明できるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	40%	授業への参加・貢献度、ミニッツ・ペーパーの取り組みの状況を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提基準:出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
 宗宮喜代子『歴史をたどれば英語がわかる』2024年 開拓社

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(音声学・音韻論)(1)

担当教員: マシューズ ジョン

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 月1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B405

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:2

更新者: AA0824

更新日時: 2024-12-12 18:34:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

This course introduces students to the study of Phonetics, the scientific study of speech sounds. It focuses on the segmental phonetics of English, or the study of individual speech sounds, but some interaction with other properties of the English sound system will also be covered. In addition, some attention will be paid to the differences between English and Japanese.

Overall, the course begins by highlighting the differences between English spelling and English pronunciation and recognizing the need for a different kind of alphabet to represent precisely how words are pronounced. While learning to use the International Phonetic Alphabet (IPA), students will study the phonetic features of speech gestures including tongue position, lip shape, place of articulation, manner of articulation and more. Starting from the familiar set of 5 vowels (母音) in Japanese, we will study the 14-vowel system of English and then progress through the different classes of consonants (子音). The course ends with students learning about segment pronunciations change in fluently produced English speech.

科目目的

Studying the phonetics and phonology of English will give students a deeper understanding of the sounds of spoken English, their relationship to English spelling, and the principles that govern their sequence patterns within words. By connecting phonetics to pronunciation, students will identify aspects of their own English speech that would benefit from targeted pronunciation training and practice. Students interested in pursuing a career as an English teacher will gain a strong foundation that will prepare them for learning how to teach pronunciation.

到達目標

This course provides students with an in-depth understanding of segmental phonetics. Students will learn precisely how individual speech sounds of English are produced, with a special emphasis on those segments in spoken English that are not part of spoken Japanese. Students will become familiar with the International Phonetic Alphabet, or "IPA", which consists of a complete set of symbols for writing all of the speech sounds used in human language, though we will focus primarily on the symbols needed for the precise representation of Japanese and English pronunciation. Connecting phonetics to pronunciation will give students a strong foundation in the description and explanation of how English speech sounds are produced which will equip them to improve their own English pronunciation or to guide others in gaining accurate, fluent speech in English.

授業計画と内容

1. Pronunciation and the limits of English spelling
2. The International Phonetic Alphabet (IPA)
3. Sonority and segment classes
4. Vowels: tongue height and tongue position
5. Vowels: lip rounding and muscle tenseness
6. Manners of articulation: glides, liquids, and nasals
7. Mid-term summary and review
8. Manners of articulation: stops, fricatives, and affricates
9. Places of articulation
10. Fluent speech
11. Segments and syllables
12. Linking, deletion, and blending
13. Stress and vowel reduction
14. Summary and Review

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	33%	Test 1 covers the contents of the first half of the course.
期末試験	33%	Test 2 covers the contents of the second half of the course. It is not a comprehensive final exam covering the whole course.
レポート	0%	
平常点	34%	Online exercises included in each week's lesson.
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Feedback is generally provided online once the submission period for an assignment has ended. When assignments require manual grading, students can expect to receive results within one week following the end of the submission period. In some cases, feedback that applies to several students will be posted to Manaba either in Course News or in a Discussion Forum.

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

Extensive use of online polling for reviewing and summarizing lecture content throughout the course. Students should come to class equipped with an internet-enabled device, such as a smartphone, tablet, or laptop computer.

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト

テキストは無いけど教材が教員に配布されます。

参考文献

1. "English Phonetics and Phonology: An Introduction." Philip Carr. Wiley-Blackwell. 2012.
ISBN: 978-1405134545
2. 『音とことばのふしぎな世界』川原繁人著 岩波科学ライブラリー. 2015
ISBN: 978-4-00-029644-1

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(音声学・音韻論)(2)

担当教員: マシューズ ジョン

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 月1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B406

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:2

更新者: AA0824

更新日時: 2024-12-12 18:38:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

This course introduces students to the phonetics of syllables, stress, words, compounds, and phrases, as well as intonation in sentences and larger discourse in spoken English.

The course begins with how segments are organized into syllables, including their constituent parts. We then move to the grouping of syllables into larger units of prosody such as the "metrical foot", a unit used to analyze poetry that applies equally well to the study of everyday spoken language. It is particularly useful in understanding the rules of English stress in words, compounds, and phrases. The course finishes with students learning about the different intonation patterns used to signal grammatical and pragmatic meaning in spoken discourse.

科目目的

The purpose of studying the phonology of English is to understand the principled organization of speech sounds in patterns that give English its distinctive rhythm and melody. It also provides a deeper understanding of the changes words undergo when they are inflected with grammatical and derivational endings. Moreover, comparing the phonological principles of Japanese and English will make clear many of the pronunciation challenges Japanese learners of English face and some of the strategies available to overcome them.

到達目標

Students will gain a comprehensive understanding of the sound patterns of spoken English. This includes how speech sounds are pronounced together in syllables which are themselves organized into larger units of stress and intonation. The phonetics and phonology of English will be studied in depth, and students will learn how to apply what they learn to their own English pronunciation, with a particular emphasis on fluency gained through improved phrasing, stress and intonation.

授業計画と内容

1. Segmental and Suprasegmental phonetics
2. Segment classes
3. Sonority hierarchy
4. Syllabification
5. Syllable constituents and syllable structure
6. Syllable linking in fluent speech
7. Mid-term summary and review
8. Prosodic Foot structure
9. Stress and accent
10. Word structure and word stress
11. Complex and Compound words
12. Phrasal stress
13. Intonation and Pragmatic force
14. Summary and Review

授業時間外の学修の内容

- 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	33%	Test 1 covers the material from the first half of the course. That material will not appear on Test 2.
期末試験	33%	Test 2 covers the material for the second half of the course. The contents of Test 1 will not be repeated on Test 2.
レポート	0%	
平常点	34%	Online exercises must be completed every week.
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

Weekly quizzes will be administered online. Test 1 and Test 2 will take place on campus during class time. They evaluate your knowledge and understanding of the material from the first half and the second half of the course, respectively. There is no comprehensive final exam to review the whole course in a single test.

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Most quizzes are graded automatically with results available on Manaba once the quiz period ends. Tests are graded manually. Answers will be available shortly after the test time has ended, and student test scores will be available through Manaba, typically within about one week.

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

Extensive use of online polling for reviewing and summarizing lecture content throughout the course. Students should come to class equipped with an internet-enabled device, such as a smartphone, tablet, or laptop computer.

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the instructor. In addition, all class materials will be made available on-line through Manaba.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語学(形態論・統語論)(1)**担当教員： 木村 崇是**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 木3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B407

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:2

更新者：AD1422

更新日時：2025-01-10 17:49:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、英語の文を対象として文の構造の基礎論を学ぶ。前半では、文構造の基礎を1歩ずつ学んでいき、後半ではそれに基づいて、各範疇に関する主要な現象と理論を扱う。

科目目的

英語の基礎的な文法現象について、生成文法理論に基づいて記述・説明ができるようになることを目的とする。

到達目標

- ・生成文法理論に基づき、基本的な文の構造を記述することができる。
- ・基礎的な文法現象について説明することができる。

授業計画と内容

- 授業計画
- 第1週 文法の構造と言語学の目標
 - 第2週 構造的階層性と多義性
 - 第3週 名詞句の構造
 - 第4週 動詞句の構造(1):基礎
 - 第5週 動詞句の構造(2):項構造
 - 第6週 時制と一致、助動詞
 - 第7週 補文構造
 - 第8週 ここまでのまとめと内容理解の確認
 - 第9週 名詞句移動:格理論と受動化、虚辞(there)構文
 - 第10週 定形節と不定節:コントロール理論と繰上げ
 - 第11週 主要部移動
 - 第12週 WH移動と量化詞移動:演算子と作用域
 - 第13週 移動の制約
 - 第14週 全体の振り返り

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 40% | ・用語や概念を十分に理解し、授業で扱った内容をカバーできているか |
| 期末試験 | 40% | ・用語や概念を十分に理解し、授業で扱った内容をカバーできているか
・授業内で扱った内容を踏まえて発展的な問題に対して論理的な考察ができているか |
| レポート | 0% | |

平常点	20%	定期的に授業資料の最後に発展問題を掲載する。それらの課題について、授業内容を踏まえて考察し、論理的にまとめた上で小レポート形式で提出してもらう。提出回数および以下の基準から総合的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を正しく理解しているか ・考察が論理的であるか ・独自の論考や検証が行われているか
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席は記録しませんが、知識積み上げ形式のため、欠席すると授業についていけなくなります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

レジュメを配布するため、特定のテキストは指定しない。
参考文献は毎回の配布資料に付記する。

参考文献:

Radford, A. (2016). *Analysing English Sentences*. Cambridge University Press.
 Haegeman, L. (2006). *Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation and Analysis*. Blackwell.
 渡辺 明. 2009年. 『生成文法』東京大学出版.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(形態論・統語論)(2)

担当教員: 木村 崇是

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B408

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:2

更新者: AD1422

更新日時: 2025-01-11 01:15:0

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

英語学(形態論・統語論)(1)で扱った内容を基盤として、主要な英語の形態・統語現象について学ぶ。適宜、英語と日本語の比較も行う。基本的な文の統語構造(樹形図)を記述できることを前提とする。

科目目的

英語の主要構文の形態・統語の現象とその分析について学ぶ。

到達目標

英語の主要構文について、その特徴や分析について説明できるようになること。

授業計画と内容

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 束縛現象
- 第3週 極性現象
- 第4週 省略現象
- 第5週 有界性と完結性
- 第6週 結果構文
- 第7週 tough構文, 中間構文
- 第8週 倒置現象
- 第9週 ここまでのまとめと内容理解の確認
- 第10週 日本語の束縛現象と省略現象
- 第11週 日本語の格とかき混ぜ
- 第12週 日本語の受動態
- 第13週 日本語の作用域とWH疑問文
- 第14週 全体の振り返り

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 50% | ・用語や概念を十分に理解し、授業で扱った内容をカバーできているか
・授業内で扱った内容を踏まえて発展的な問題に対して論理的な考察ができているか |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 50% | 授業で扱ったものの中からトピックを選択し、授業内容を踏まえて自身で考察し、論理的にまとめた上で小レポート形式で提出してもらおう。以下の基準から総合的に評価する。
・授業内容を正しく理解しているか |

- ・考察が論理的であるか
- ・独自の論考や検証が行われているか

平常点 0%

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末

- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用せず、授業内で資料を配布する。

参考文献:
中村捷・金子義明編『英語の主要構文』研究社
中村捷・金子義明・菊地朗『生成文法の新展開』研究社
影山太郎編『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(意味論・語用論)(1)

担当教員: 細井 洋伸

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B409

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:2

更新者: AC3598

更新日時: 2025-01-11 09:48:2

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

このコースでは、特に意味論に焦点をあてて勉強していきます。意味論の分野でも、意味論に必要なとされる基本的概念、単語や文に関する意味、テンス、モダリティ、さらには、形式意味論にも少し触れて行きます。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「各専攻の学問分野において求められる専門的な知識」を習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、学生が、英語の文法的観点から見た様々な特徴について、これまでの英語学の知見を活かして、他者に説明できるようにする。

授業計画と内容

- 授業計画
- 第1回: 授業概要説明
 - 第2回: Semantics in a Model of Grammar
 - 第3回: Reference
 - 第4回: Word Meaning (Hyponymy, Polysemy, Synonymy)
 - 第5回: Word Meaning (Opposites, Hyponymy, Meronymy)
 - 第6回: Sentence Relations and Truth
 - 第7回: Logic and Truth (1): Negation and Conjunction
 - 第8回: Logic and Truth (2): Disjunction and Implication
 - 第9回: Entailment and Presupposition
 - 第10回: Formal Semantics: Translating English into a Logical Metalanguage
 - 第11回: Formal Semantics: Predicate Logic
 - 第12回: Sentence Semantics: Classifying Situations
 - 第13回: Tense and Aspect
 - 第14回: 総括・まとめ: 形式意味論の観点から
- 定期試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジュメを事前に読み込み、分からないこと、疑問に思うことを頭で整理し、授業に臨むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 30% | 英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。 |
| 期末試験 | 30% | 英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から |

説明できるかどうかを評価します。

レポート	0%	
平常点	40%	出席状況、授業への参加・貢献度の状況を基準とします。 *6回以上休んだ者は、評価の対象としない。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:その都度プリントを配布します。

参考書・参考資料等:Saeed, John. Semantics, 3rd ed. (2008) Oxford: Blackwell.
杉本孝司『意味論1:形式意味論』(1998)東京:くろしお出版

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 英語学(意味論・語用論)(2)

担当教員: 細井 洋伸

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B410

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:2

更新者: AC3598

更新日時: 2025-01-11 09:49:1

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

このコースでは、言葉の意味の中でも、私達が生きている世界に対する認知あるいは実際のコミュニケーションに関係するものを扱って行きます。具体的には、認知言語学・語用論に焦点をあてて勉強していきます。

科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「各専攻の学問分野において求められる専門的な知識」を習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、学生が、英語の文法的観点から見た様々な特徴について、これまでの英語学の知見を活かして、他者に説明できるようにする。

授業計画と内容

- 授業計画
- 第1回: 授業概要説明
 - 第2回: Cognitive Linguistics: some key concepts
 - 第3回: Categorization
 - 第4回: Prototype Theory
 - 第5回: Metaphor
 - 第6回: Metonymy, Synecdoche
 - 第7回: Image Scheme
 - 第8回: Construction
 - 第9回: Pragmatics: Deixis
 - 第10回: Cooperative Principle
 - 第11回: Conversational Implicature
 - 第12回: Speech Act Theory
 - 第13回: Politeness
 - 第14回: 総括・まとめ: 認知言語学、語用論とは
- 定期試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジメを事前に読み込み、分からないこと、疑問に思うことを頭で整理し、授業に臨むこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 30% 英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。

期末試験	30%	英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	40%	出席状況、授業への参加・貢献度の状況を基準とします。

*6回以上休んだ者は、評価の対象としない。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: その都度プリントを配布します。

参考書・参考資料等: Saeed, John. Semantics, 3rd ed. (2008) Oxford: Blackwell.
Yule, George. Pragmatics, 1st ed. (1996) Oxford: Oxford.
Chapman, Siobhan. Pragmatics, 1st ed. (2011) London: Palgrave.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語学(心理言語学)(1)**担当教員： 平川 真規子**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限： 月2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B411

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:2

更新者：AA1626

更新日時：2025-01-11 18:30:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

心理言語学について概観します。前期は母語習得のメカニズムについて、心理言語学的な観点から日本語と英語の習得を中心に学びます。語彙・統語構造の習得と理解に焦点を当てます。また、二つ以上の言語環境で育つ子どものことばの発達についても学習します

科目目的

本講義では、母語獲得・言語理解・言語産出の研究において、どのような目的でどのような研究が行われているのかを理解し、母語の発達メカニズムについて考察することを目的とします。

到達目標

本授業では、母語話者による第一言語の獲得・言語理解・言語使用に関して、これまでの研究成果を理解し、基礎的知識を修得することを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回：心理言語学とは
- 第2回：母語獲得における入力の特徴
- 第3回：幼児のことばの獲得
- 第4回：語の獲得
- 第5回：動詞の獲得
- 第6回：言語産出のメカニズム
- 第7回：子どもの不完全な発話・誤用
- 第8回：言語理解のメカニズム
- 第9回：構造依存性の知識
- 第10回：心理言語学の手法
- 第11回：文法の獲得：空主語、(再帰)代名詞の知識
- 第12回：文法の獲得：典型的な文と派生構造
- 第13回：バイリンガリズム
- 第14回：まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 授業内容を十分に理解できたかどうかを確認します(論述問題を含む)
レポート	0%

平常点 40% 毎回の授業内容に関する課題・議論への積極的な取り組み
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席および課題の未提出は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケート機能を使い、毎回の授業の理解度を確認しながら、授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
初回の授業で指示します。

参考文献:

- 『子どもに学ぶ言葉の認知科学』広瀬友紀著 2022. ちくま新書 ISBN: 978-4-480-07493-5
- 『言語の本質』今井むつみ・秋田喜美著 2023. 中公新書 ISBN: 978-4-12-102756-6
- 『レキシコンの構築 子どもはどのように語と概念を学んでいくのか』今井むつみ・針生悦子著 2017. 岩波書店 ISBN: 978-4000025386
- 『はじめての言語獲得——普遍文法に基づくアプローチ』杉崎鉦司著 2015. 岩波書店 ISBN: 978-4000058391
- 『ことばとこころ—入門心理言語学』村杉恵子著 2014. みみずく舎 ISBN 978-4-86399-269-6
- 『ことばと思考』今井むつみ著 岩波新書 2010 ISBN 978-4-00-431278-9
- 『言葉をおぼえるしくみ: 母語から外国語まで』今井むつみ・羽生悦子著 ちくま学芸文庫 2014. ISBN 978-4-480-09594-7
- 『How Children Learn Language』O'Grady, William. 2005. Cambridge University Press.
- 『Psycholinguistics 101』Cowles, H. Wind著. 2011. Springer Publishing Company.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

科目名: 英語学(心理言語学)(2)

担当教員: 平川 真規子

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B412

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:30:2

更新者: AA1626

更新日時: 2025-01-11 18:33:1

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

後期は第二言語に焦点をあて、文法知識の獲得・言語理解の研究を概観し、第二言語獲得のメカニズムを探ります。また、継承語(Heritage Language)や第三言語についても検討します。

科目目的

第二言語の文法知識の獲得、言語理解や言語使用の基礎知識を習得します。様々な心理言語学的な実験手法が、言語に関するどのような疑問に答えることができるのかを理解することを目的とします。

到達目標

第二言語の文法知識の獲得・言語理解・言語使用に関して、これまでの研究成果を理解し、基礎的知識を修得することを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回: 第一言語と第二言語の違い
- 第2回: 第二言語獲得研究への言語学的アプローチ
- 第3回: 与格交替と関係節の研究
- 第4回: 第一言語の影響
- 第5回: 中間言語の特徴
- 第6回: 有標性と言語転移
- 第7回: 回避の現象
- 第8回: 痕跡の心理的実在性
- 第9回: 意味役割と格の影響
- 第10回: 文処理における文法制約の影響
- 第11回: 年齢要因
- 第12回: 継承語話者の文法知識
- 第13回: 第三言語の獲得
- 第14回: まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 授業内容を十分に理解できたかどうかを確認します(論述問題を含む)
- レポート 0%

平常点 40% 毎回の授業内容に関する課題・議論への積極的な取り組み
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席・課題の未提出は不可とします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケート機能を使い、毎回の授業の理解度を確認しながら、授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:
初回の授業で指示します。

参考文献:

白井恭弘(2008)「外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か」(岩波新書) ISBN: 978-4004311508
白井恭弘(2004)「外国語学習に成功する人、しない人: 第二言語習得論への招待」(岩波科学ライブラリー) ISBN-13 :
Ortega(2013). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.
Traxler, M. J. (2011) Introduction to Psycholinguistics: Understanding Language Science. Wiley-Blackwell.
Nakayama, M. (2015) Handbook of Japanese Psycholinguistics, De Gruyter Mouton.

オフィスアワー

その他特記事項

英語学(心理言語学)(1)の内容を理解していることが望ましい。

参考URL

備考

科目名： 英語学(社会言語学)(1)**担当教員： 松井 智子**

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B413

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:30:2

更新者：AA2131

更新日時：2025-01-15 14:27:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

言語を媒介とした社会的・語用論的コミュニケーションのメカニズムについて学習します。乳幼児期から就学前までの基礎的な言語とコミュニケーションの発達と、就学前期のより複雑なコミュニケーション能力の発達について理解を深めます、二つ以上の言語環境で育つ子どもの発達についても検討します。言語発達とコミュニケーション能力に不可欠な社会認知能力についても、心理学的・哲学的な視点から学びます。

科目目的

現代のグローバル社会を生きる上で必要なコミュニケーション能力とは何かを理解し、そのようなコミュニケーション力を獲得するプロセスについて学び、教育的な応用につなげることを目指します。社会的なコミュニケーション障害を持つ人に対する支援について考えることも目標とします。

到達目標

言語コミュニケーションの認知的メカニズムを理解し、その発達と障害について知識を身につけること、グローバル時代に多言語環境で育つ子どもがどのような発達を遂げるかについて理解を深め、教育や支援といった社会的応用について検討できることを目指します。

授業計画と内容

- 授業計画
- 第1回：ガイダンス
 - 第2回：言語コミュニケーションに必要な能力とは何か
 - 第3回：言葉の発達1 生物学的基礎
 - 第4回：言葉の発達2 社会学的基礎
 - 第5回：コミュニケーションの認知基盤
 - 第6回：言語コミュニケーションの発達1
 - 第7回：言語コミュニケーションの発達2
 - 第8回：言語コミュニケーションの発達3
 - 第9回：前半の総括
 - 第10回：ミスコミュニケーション
 - 第11回：コミュニケーションと発達障害
 - 第12回：グローバルコミュニケーションとは
 - 第13回：コミュニケーションと教育・支援
 - 第14回：総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	授業で学習した内容を理解し、的確に説明できるかどうかを評価する
レポート	0%	
平常点	40%	授業への参加、ワークシートの取組みを基準とする
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
松井智子 「子どものうそ、大人の皮肉」岩波書店 2013年

参考文献
岡本真一郎 「言語の社会心理学 - 伝えたいことは伝わるのか」中公新書 2013年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 英語学(社会言語学)(2)

担当教員： 松井 智子

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 水4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B414

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:30:3

更新者： AA2131

更新日時： 2025-01-15 14:28:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

社会的なコミュニケーションのメカニズムを学習することにより、人間の心と脳の働きについて理解を深めることを目的とします。研究方法として、認知心理学と言語コミュニケーションの知見に基づいた認知語用論の方法論に親しみます。理論の基本を学ぶと同時に、コマーシャルや広告を取り上げて応用的アプローチの方法を探ります。

科目目的

心と言語・コミュニケーションの相互作用を認知科学の一端として学習し、多角的、学際的な現象をとらえることを学びます。また認知語用論を理解することによって、コミュニケーションを分析、評価する方法を獲得できることから、さまざまなコミュニケーション問題の解決にそれを応用することが可能になります。

到達目標

社会的・語用論的コミュニケーションのメカニズムについて、理論的な予測・検討ができること、さらにそれを応用して、コミュニケーションの実態を分析することができることを到達目標とします。

授業計画と内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：語用論の理論的枠組み—関連性理論1
- 第3回：語用論の理論的枠組み—関連性理論2
- 第4回：語用論の理論的枠組み—関連性理論3
- 第5回：語用論の理論的枠組み—関連性理論4
- 第6回：語用論とさまざまな言語現象
- 第7回：語用論とさまざまな言語現象
- 第8回：語用論とさまざまな言語現象
- 第9回：語用論から見た広告
- 第10回：語用論から見た広告
- 第11回：語用論から見た広告
- 第12回：語用論と障害
- 第13回：語用論と脳
- 第14回：総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 授業で学習した内容を理解し、的確に説明できるかどうかを評価する

レポート	0%
平常点	40% 授業への参加、ワークシートの取組みを基準とする
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト
今井邦彦 編 「最新語用論入門12章」 大修館 2009年

参考文献
Tanaka, K. 1999. Advertising Language: A Pragmatic Approach to Advertisements in Britain and Japan. Routledge.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考